

## 中国・四国



## キャンパスNews

## 公立大

## 島根県立大

ヘルスツーリズム研究会が  
県民の健康問題解決に貢献

島根県立大のヘルスツーリズム研究会では、県民の健康問題解決への貢献を目的として、同大学が有する研究・教育機能を用いてヘルスツーリズムの開発と実施を行っている。その一環として、8月23日に「第1回糖尿病患者さんのためのヘルスツアー」を開催した。

このツアーは、糖尿病の自己管理をしている人を対象として、島根県内の豊かな地元の資源を活用したプログラムを通して「心」と「体」をリフレッシュすることを目的としたもの。健康チェックとともに、ストレスに関する講話や、同大学の健康栄養学科教員が監修した600キロカロリーのオリジナル昼食、地元の特色の体験を、同研究会がプログラムした。

当日は、島根県安来市広瀬町を訪問。「富田山荘」で自律神経や気分状態について健康チェックを行い、普段の生活について全員で語り合った。さらにオリジナル昼食を食べながら、食品交換表の単位を示した献立をもとに食べ方のポイントを確認。その後、広瀬餅で有名な「天野紺屋」で藍染め体験を行った。



参加者に好評だったこのツアーは、11月15日に第2回の開催が予定されている

## 福山市立大

伝統の二上りおどり大会に  
福山市立大学連が出演

福山夏まつり2018が8月13～15日に開催され、初日の二上りおどり大会に福山市立大学連が出演した。

広島県無形民俗文化財である二上りおどりは、江戸時代中期から3世紀にわたって続く福山の伝統芸能。気品と哀調を含んだ三味線の独特のリズムに合わせ、四ツ竹を鳴らしながら踊る。

同大学では、共通教育科目(選択)に「健康・スポーツⅡB(二上りおどり)」を開講。学生らは、戦火を乗り越えて踊り継がれてきた二上りおどりから、踊りの所作だけではなく福山の風土や歴史などの文化的・社会的側面についても学んでいる。

二上りおどりの演舞は今年から、2022年に築城400年を迎える福山城でも行われることになり、福山城→きたはま通り→中央公園・ひさまつ通りを経てフィナーレを飾る総踊りに大学連として総勢約50名が参加。履修学生をはじめ、既習者、教職員、前身の短大時代より続く公開講座への参加市民を含めた踊り手に、後方支援の学生・教職員が加わった。

沿道から称賛の声が上がるなど、学習の成果を体全体で表現する学生らの踊りは、目の肥えた市民からも評価される質の高いものだった。参加した学生は「この踊りを継承し、素晴らしさや可能性をもっと多くの人へ伝えていきたい」と話した。



二上りおどり大会における、市民から福山市立大への期待と応援は年ごとに高まっているという

## 私立大

## 聖カタリナ大

学生らが松山最大の祭りで  
チャリティゲームを実施

四国四大祭りに数えられる松山まつりが8月10～12日に開催され、2日目に行われた「野球拳おどり～団体連の部～」(出場33チーム約2440人)で、聖カタリナ学園連が準優勝を飾った。

野球拳おどりは、松山まつりの目玉イベントの一つ。郷土芸能の「本家野球拳」をベースに、それぞれが独自にアレンジした「野球をイメージしたアクションやお囃子、衣装」で踊りを披露し、企業連や団体連などが演舞を競い合う。

当日は、聖カタリナ学園(聖カタリナ大・聖カタリナ大学短期大学部・聖カタリナ学園高校)の学生・生徒と教職員が一体となって練習の成果を発揮し、笑顔で踊りきった。

また、今年の松山まつりは、7月に発生した西日本豪雨災害を受けて「がんばろう松山・がんばろう愛媛」をスローガンに掲げていた。

聖カタリナ学園では、地域連携推進室が中心となって企画を検討し、3日にわたってチャリティゲーム大会も開催。親子連れをはじめとする多くの来場者が楽しんだ。集められた募金は、被災地の復興支援に貢献するために寄付された。



チャリティゲーム大会で祭りを盛り上げ、被災地の復興にも貢献した